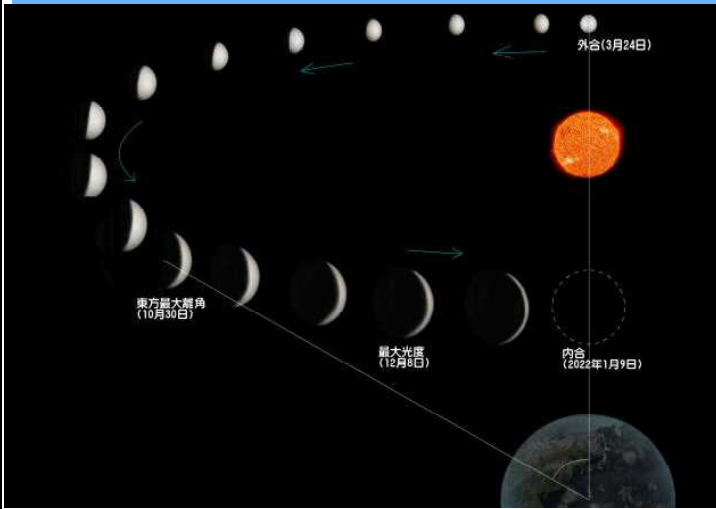


# 7月大天体ショーが始まる

# プラネ新聞

## 「金星が来る」ってどいつから?

### 宵の明星として、ますますその輝きを増してくる金星!!なぜ?



金星がそろそろ西の空に一番星として見えてくる時期となりました。そろそろ見えてくるとは、夕方、西の空に来て、その明るさを徐々に増してくるという意味ですが、一体どういふことでしょうか。そして金星は今までどうして一番星として見えていなかったのでしょうか。今月はその金星のお話です。

金星は内惑星です。内惑星とは地球と太陽の間を太陽を中心としてまわっている惑星のことです。ですから金星は地球から見て常に太陽の近くにいて、思ってしまうと見てください。

また、公転周期は225日です。地球は365日ですね。つまり、地球より速く一周すると同時に、どこかで地球を追い越すという点でもあります。

発行所 岐阜市科学館  
〒500-8389  
岐阜市本荘3456-41  
TEL: 058-272-1333  
FAX: 058-272-1303

金星は太陽の向こう側に重なっている時を外合をいい、当然太陽の向こう側にいるので見ることは出来ません。それが太陽の東側に移動してくると、宵の明星といい、夕方、西の空に見ることが出来ます。ただし太陽の東側に抜けたばかりの時は、太陽が近くにあるため、上図のようにさらに東側に移動してくると、太陽から徐々に離れるため、太陽が沈んだ後、かなり遅い時間まで金星を見る事が出来ます。その後は地球にぐんぐんと近づいてきて、12月8日に最大光度となります。金星は月と同じように欠けていますが、地球との距離が近いとことと明るく見える面積との兼ね合いで一番明るく見えるのです。

さて、金星への疑問は解きましたか。しばらくは毎日見られる宵の明星金星を楽しんでください。

## 超人気展示物の紹介コーナー 「ブラックホールから脱出」

「ブラックホールから脱出」の展示で一番見てほしいところは、ボールがブラックホールから離れている時はゆっくりと回り、反対に近づくと速く回るところだよ。これをケプラーの第二法則というんだ。反対側にあるボールにボールを入れることが目的だけれど、その途中で、このことを発見出来るかな? できたら君はすごい。



## 疑心暗鬼がもたらした哀れな結末!

今回は疑心暗鬼がもたらした少々の可哀な「星座」の主人公オルフェウスのお話です。

彼は琴演奏の達人でした。彼がひとたび琴を奏でると誰もが心優しくなってしまうのです。たとえ、猛獣の虎であっても借りてきた猫のようにおとなしく、そして優しくなるのでした。かれにはとても愛しているエウリディケという妻がいました。あるとき、エウリディケは森を散歩していた時、恐ろしい毒ヘビにかまれて死んでしまいました。それを知ったオルフェウスはひどく悲しみました。彼はなんとかして死んだエウリディケを生きて返してもらおうと死の国の入り口を探しあて、長い階段を降りていきました。そして死の国の神ハーデスにお願いしたのでした。もちろん良い返事はもらえません。そこで彼は琴を奏でたのです。すると首を縦に振らなかつたハーデスに「おまえの気持ちはわかった。エウリディケを返してやるわ。ただし、地上へ出るまでは決して後ろを振り返ってはならぬ。」そう言われたのですが、後ろにいるはずのエウリディケの足音がしません。あと数歩で出口というその時、ついに彼は後ろを振り返ってしまったのです。するとそこには今更ですぐ後ろにいたエウリディケが再び死の国に引き戻されていく姿があったのでした。

